

平成 29 年 10 月 21 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム 平成 29 年度第 8 回

縦の学問を学ぶ

司会の幹事さんが「塾長の講演」と言われたのが気になりました。私は常に「講話」と言っていますし、レジュメを作る時にもそう書いています。ご自分の常識で、私が話をするのも「講演」と受け止めているからでしょう。人間の脳は面白いもので、一度頭の中にすり込んでしまうと、「講話」と書いてあっても「講演」と読んでしまうのだと思います。ですから時々、自分の常識を棚卸しする必要がありますね。

中斎塾フォーラムは 10 年経って、第二段階に入りました。私の話の受け止め方も、人によって大分違っているように感じます。熱心に話を聞いていても、自分の殻が硬いと跳ね返してしまいます。自分の中に入れて咀嚼してみないと、上手いか不味いか分かりません。私も一所懸命お話をさせて戴きますので、どうぞ皆さんもそういう聞き方でお願い致します。

今迄の 10 年間は知識を広げましようとして申し上げていました。ですから言葉の解説もしてました。これからは言葉の意味は答えませんから、ご自分で調べて下さい。人に聞いて簡単に分かったものは忘れますが、自分で調べて納得すると覚えます。また、人に教えれば覚えます。

かく言う私も、今日はフォーラムの準備資料を忘れました。今まで忘れたことがありませんが、このところ過密スケジュールで、持ち歩いてたにもかかわらずどこに置いたか分からない。過密スケジュールは認知症とそっくり同じ症状が出るそうなので、はて、これは単なる物忘れか？ 認知症の初期症状なのか？ と考えさせられましたが、これはまだ認知症ではなく物忘れの部類に入るだろうと思っています。しかしながら、物忘れが酷くなると、そこから認知症に入っていくようですから、過密スケジュールはやめた方がよいなとつくづく反省を致しました。

今日ご紹介する本は天風先生の『盛大な人生』（日本経営合理化協会）です。中斎塾フォーラムは第二段階の判断基準の確立に入りましたので、これからは天風先生の話を増やしていきます。この本は天風先生曰く、天風哲学の大学院コースの本です。天風哲学は人

間として如何に生きるか、人間として生きる道を追求していくと宇宙の叡智に直結するといいます。つまり、宇宙の叡智に直結する方法・考え方を説明している本です。

では、レジュメに沿ってお話致します。これまでフォーラムの講話は話があちこちに飛んでいました。それは知識を増やすためです。横の学問は知識をどんどん増やしていく。そうすると或る時、突然融合します。知識が爆発して智慧に変わります。そのために知識が沢山要るわけです。これからは第二段階ですから、縦の学問に入ります。縦の学問は歴史的にずっと繋がった話をしていきます。ですからレジュメ通りに話をして、あちこちに飛ぶ話は減らしていきます。

「知足」・・・天風哲学で考える

基本哲学の「知足」（足るを知る、ほどほど）を天風哲学で考えましょう。

天風先生が死の病にとりつかれて、自分を治してくれるお医者さんを捜して世界中を歩き回り、最後にインドのカリアップという先生に出会い、修行ののち病氣を治して日本に帰って来たという話をご存知の通りです。天風先生は日本に帰って来て真っ先に頭山満という師匠の家に挨拶に行きました。いつものように裏口から入って奥様に挨拶をすると、以前でしたらフリーパスで通してくれるはずが、そこで待つように言われます。暫く待つて座敷に通されると、遠山先生と奥様が正装して下座に座っておられる。師匠から上座に座るように言われて困惑していると、奥様が「何も言わずにお座りなさい」と仰る。仕方なく天風先生が上座に座ると、師匠が「あなたは尊い修行をして来られた。キリストは5年間の修行をして人を導くことを始めた。釈迦は6年、マホメットは7年間の修行の成果で人を導いた。あなたもこれからは人を導く人生を生きなさい」と言われます。師匠からすると、弟子が自分を乗り越えてくれたら嬉しいわけです。天風先生は師匠から言われたその言葉が強烈に頭に残っていて、その後の色々な動きの中で、これから私は人さまを導く道に入ろうと決めたわけです。

面白い話をご紹介します。天風先生は、お釈迦様が7月8日に説法を始めたから自分はそれよりひと月前の6月8日に始めようとして、奥様に握り飯を作って貰い、上野の精養軒の前で説法を始めました。その後、芝の増上寺、高田馬場の大隈重信の銅像の前・・・と、自分が気に入った所で説法を始めます。

天風先生の話は経済人（有名なのは松下幸之助さんです）が聞き、皇族や軍人も聞き、官僚や庶民も聞きました。天風先生は庶民に分かるような話し方をし、尚且つ皇族が聞いて

でも納得する話をしましたから、広範囲にわたって聞きに来る人がどんどん増えていきました。

もう一つ、皆さんは紋付を着た天風先生が檻の中で虎の隣に立っている写真をご存知でしょうか？ 天風先生は、人間は潜在意識で生きるものである。顕在意識で動いていたなら挫折や失敗の連続になる、と教えておられます。潜在意識で生きていれば、虎の隣に立っても襲われることはないという話です。

我々が勉強する「足るを知る」は、そういう考え方をしっかり受け止めて学びを深めているとお考え下さい。陽明学は行動の学問ですから、具体的なコツをお話します。修行の仕方、勉強の仕方は陽明学的手法で致しますが、根っこにあるものは宇宙を意識します。宇宙の摂理をととても分かりやすく解説しているのが天風哲学だと思っています。私が話をするものは陽明学が中心ですが、根っこにあるものは天風先生の考え方です。ですから横の学問は安岡教学、縦の学問は天風哲学で我々は学んで参ります。特に「足るを知る」という真髓の部分はそちらになります。そしてそれを解説するのが陽明学です。そう思って基本哲学「知足」をお話しますので、どこかにポイントを置いてお聞きになると良いと思います。

では、恒例の質問を致します。これも具体的に「足るを知る」を身体の中に取り入れるためだにご理解下さい。今日はここ数ヶ月でお聞きします。

○ ここ数ヶ月、嘘はついていない方

少し考えて手を挙げた方が多いようです。先ほどの天風先生の虎の話で、潜在意識で動いている場合は、ずっと手が挙がるか挙がらないかです。自分の頭の中で、さてどうだったかな？ と考えるのは顕在意識です。考えて挙げているか、ずっと挙げているか、ご自分の手を挙げるスピードを意識してみてください。

○ ここ数ヶ月、良い日が続いていると思う方

何度も申しますが、天秤にかけないことです。嫌な事を引きずっていると手が挙がりません。良い事を反復していくと、無意識に手が挙がります。良い事があったらそれを頭に火種として残して、疲れた時や辛い時、そこに息を吹きかけて良い記憶を戻してやるとよいでしょう。

○ ここ数ヶ月、有難うと言いや有難うと言われることが続いている方

○ ここ数ヶ月、健康法を実践し続けている方

○ 昨晚寝る時に、楽しくてワクワクすることを考えながら寝た方

何でもよいのです。寝る時に自分の心がワクワクするような楽しい事、嬉しい事を思い浮かべる。そうして眠れるとよろしいですね。

○ ここ数ヶ月、自分磨きを続けている方

自分磨きも何でもよいのです。自分で考えて進めて戴くようお願い致します。

巧言は徳を乱る

本日は衛霊公篇 25～28 です。明日は衆院選の投票日ですから、選挙に絡めてお話しします。となると、26 から先に解説致します。

【二六】 しいわ子曰く、こうげん巧言はとく徳をみだ乱る。しょう小をしの忍びすなわざれば、たいぼう則ちみだ大謀を乱る。

孔子が言うには、上手な演説をする者は徳性に問題がある。小さな欠点は大目にみないと大きな計画が狂いかねない。

安倍さんは演説が上手ですね。上手な演説をする候補者は危ないと思って演説を聞いた方がよいでしょう。ただし新聞やテレビの報道は、メディアが流したいところだけを切り取っているから要注意です。安倍さんの演説を半日ずっと聞いた方に伺いました。そうしましたら、例えば消費税について安倍さんは、消費税を上げる前提条件や使い道などを非常に細かく説明していたけれども、翌日の新聞五紙をチェックしたが何も書いてなかったそうです。あれだけ前向きなプラスの話をしていたにもかかわらず、ただ単純に増税ありきの話になっていたのが驚いたそうです。やはり演説なら全部聞かないといけません。新聞やテレビで切り取られたものだけを見て判断しては間違えると感じました。

各政党の党首が何を話しているか、この論語が判断基準になります。立憲民主党の枝野さんはどうか、日本維新の会の党首は話が下手だから多分徳性に問題はないだろうとか、希望の党の小池さんは実によく喋るけれども、大丈夫かな・・・と、考えながら演説をお聞きになると面白いと思います。

今回の選挙で小池さんと小泉進次郎さんの舌戦もマスコミを賑わせていますが、裏の動きを読めば、小池さんが情勢を見ていて、もしまた風が吹くようであれば都知事の後釜に小泉元総理を立てて自分は総理大臣を目指してまっしぐら！ という風を吹かせたかったのだと思いますが、断られてしまった。それが息子の進次郎さんに対して好戦的な態度に繋がったのかなとも思いました。

また、今回の野党連合の仕掛け人は小沢さんですが、仕掛け方がずいぶん下手になりました。オリーブの木構想も色褪せてしまって、ポロポロこぼれています。今回の選挙で野

党連立政権になった場合、小沢さんは日本国内では評判が悪いけれども外国からは非常に良いから、外交を主とする総理大臣の特別顧問のようなポジションで出て来るのではないか・・・といった情報が飛び交っていました。

そうするとそこら辺を見分けるのは、「巧言は徳を乱る」で、立て板に水のような上手な演説をしている候補者は？マークで、「剛毅木訥仁に近し」で、訥々と喋るような候補者の話は真剣に聞くとよいと思います。更に、「小を忍びざれば、則ち大謀を乱る」で、小さい欠点をあげつらっている候補者は大局を見誤るから、これも危ないとお考え下さい。いずれにしても、できればユーチューブ等で演説を全部聞くとよいでしょう。ほんの一部をかじって切り張りしたような話を聞いても誘導されるだけです。

【二七】 しいわ子曰く、しゅう これ にく かなら さつ衆之を悪むも必ず察し、しゅう これ よみ かなら さつ衆之を好するも必ず察す。

孔子が言うには、皆が駄目だと言っても鵜呑みにせず、自分自身で詳しく調べる。皆が良いと言っても、本当にそうなのか詳しく調べてから判断しなければいけない。

残念ながら地方の市長選や市議選などでは、政策や人柄といった中身は関係なく、お金の配り方で当落が決まるような選挙もあるようです。しかし候補者の演説や行動をよく見ていれば、何か見えて来ます。自分の眼で見て自分の耳で聞いて、出来れば候補者と話をする。「必ず察す」ということを自分自身のものにして下さい。肝心なのは、ポイントでなくその人の話したことを全部で見・聞きすることです。

【二八】 しいわ子曰く、ひと よ みち ひろ人能く道を弘む。みち道人を広むるに非ず。あら

ここは朱子（朱熹）の解説が分かりやすいと思いますのでご紹介します。

朱子は、道は扇子で、人はそれを扇ぐ手だと喩えています。人の手が動くことによって扇子が風を起こしてくれるのであって、扇子は手がなければ涼しくすることは出来ない。つまり、自分で能動的に扇子を使って仰ぎなさいということです。

いくら良い話を聞こうが良い本を読もうが、その人の心が動いて真剣に聞こう、真剣に覚えようと思わない限り道は広がらない、人の器は大きくなると考えた方がよい、と朱熹がめずらしく良い解説をしています。

【二五】 しいわ子曰く、われ なお し けつぶん およ吾猶史の闕文に及べり。うまあ もの ひと か馬有る者は人に借して之に乗らしむ。これ の今

な は亡きかな。

歴史的な文章が見つかって、その中に消えてしまい見えない部分がある、それが闕文です。

孔子が言うには、歴史上の闕文の箇所については、想像で書かなかった。馬を持っている人間は、馬を人に貸して人の役に立たせ、その利益を自分の懐に入れなかった。これが昔の人の良いところだ。残念ながら今の人たちはそういうことをしない。

その欠けている文章は、後世の人間の知恵で埋めて貰えばよい。自分たちの勝手な想像や判断でやるべきではないというニュアンスが入っています。孔子は歴史を編集する動きをしましたから、解釈できない所は書かないと言っています。

昔の人の良いところは、自分が解釈できないものは無理に解釈しないし、馬を持っている者は善意で人に貸して、利益を得ようとしなかった。しかし今の人たちはそうではない。いったいどうなっているのかね・・・と、孔子の時代を嘆いていたと解釈すればよいでしょう。

時代の流れを見抜く

本日のテーマ「判断基準」に時事評論を加えてお話します。

例として選挙をとりあげます。先ほどの論語に、演説が上手な人は危ないとありました。ヒトラーがどんどん勢力を拡大していった理由は、とても演説が上手かった。木内信胤先生曰く、「外国人の僕が聞いても血沸き肉躍るような素晴らしい演説をしたのだから、ドイツ国民がヒトラーに魅了されてもおかしくはない」という演説をして人心を掌握しました。

判断基準として、「巧言令色、鮮きかな仁」という言葉が論語にあります。口の達者な人間はいけません。人さまより話を沢山する人、饒舌な人は、喋らない努力をした方がよろしいようです。なるべく話をしないで、以心伝心で伝わるような話し方をするとよい。そう、私自身にも向けて申し上げています。

判断基準ということで、大きな歴史の流れを受け止めて戴きたいと思います。今朝の読売新聞（11/21）から気になった記事、そこから読み取ったことを申します。

・天皇退位 1019年3月末有力・・・2019年3月末で天皇陛下が退位されて、4月1日に皇太子さまの即位と改元をする案が有力となったとあります。

もう一つ、前日の新聞に皇后陛下が83歳の誕生日を迎え、天皇陛下の退位を実現する特例法が成立したことにホッとされたという内容の記事がありました。

二つの記事を並べて大きな潮目で眺めると、これから天皇陛下がなされる仕事は、今までとは違うレベルのことを始められるだろうと考えます。私は天皇陛下がこれから世界を動かしていく中での重要なポジションをなされるであろうという気がします。

例えば最近、温暖化という言葉が聞きますか？ 少し前はよく聞きましたが、今は学者も国連も言いません。この間、東京フォーラムで大野参与が「温暖化と同時に寒冷化が進んでいる」と言っておられました。ですから今は全部ひっくるめて「地球環境が悪化した」という言う方をしているようです。こういう言葉の言い換えが世界でどんどん進んで行くと感じます。これも天皇陛下の重要な仕事と繋がってくると思っています。

他にも第三次世界大戦の脅威や原発問題等々、待たなしになっている状況ですので、天皇陛下のされることを私はこれから注視して、陛下の言われる言葉の奥に何があるかを汲みとっていきこうと思っています。具体的には、陛下がどこの国の皇族とよりお付き合いを深められたか、各国の実務をこなしている大統領や国のトップ、特に精神的な象徴になっておられる方々とどういってお付き合いをなさるか、どういう言葉を発せられるか・・・といった見方をしようと思っています。

・商工中金不正融資問題・・・代表取締役3人が揃って退任するという記事が昨日(11/20)の新聞です。今朝の新聞には800人を処分すると出ています。

・日産無資格検査問題・・・国内工場すべてで国内向けの出荷を2週間停止とあります。
・神戸製鋼検査データ改ざん・・・これも、まともに商売をしている取引先は非常に困ります。

どこかの企業が悪い事をする、バタバタと不祥事が出てきますね。お金に関係して問題が起きている所は皆、駄目ではないかと感じます。

一転、次のような記事もあります。

・シェアリングエコノミー（共有型経済）急成長・・・例としてライドシェア交通の革命とあります。例えば子供を保育所に迎えに行かなければいけない。そうするとスマホのアプリで、保育など子供を対象とした仕事経験を持つドライバーに迎えに行って貰うといったサービスです。また、アメリカのエアビーアンドビーが始めた民泊の仲介は、大手ホテルチェーンを上回る数の部屋を確保しているとあります。

経済で眺めてみると、こういった目に見えない水面下の商売が急激に増えています。尚且つ、キャッシュは使わなくなりました。スマホなどインターネットで決済が出来、通貨を使わない時代に入ったと言えます。

世の中は変わって来ています。新聞記事からそういう時代の流れ、歴史の流れが今、大きな潮目が来ているということを見抜いて、自分自身の人生に役立たせることをお願いして、本日の講話を終了致します。